

今日もはなまる



発行者：土田幸子

2016/11/12

第2号

今日も はなまる

このかわら版のタイトル、

「はなまる」は、我が家のとっても Big な猫の名前です。でも、「丸の最上級みたいになっている」「太陽のマークに似ている」ことから、このかわら版の名前にもいいのでは？と名づけました。



太陽のように、みんなを暖かく見守るそんな存在・会でありたいと思っています。

去年は糸川先生でした

親&子どものサポートを考える会が活動をし始めたのが2009年。そこから徐々に発展し、2013年から「全国版 子どもの集い・交流会」を行っています。去年は、子どもの立場でもある糸川昌成先生にお越しいただき、『脳と心』をテーマにお話いただきました。子ども・スタッフとも、それぞれの立場で、“心に感

じる”講演会でした。糸川先生は、第1回目の全国版の集いにもご参加いただいたのですが、その時に話されたことと違う！と質問があり、それにも「年月を重ねることで、捉え方が変わってきた」と変化する心情をていねいに語っていただき、“気持ちが変わってもいいんだ”という気づきにもつながったと思っています。

今年の中村ユキさん。どんなお話が聞かせていただけるか、私も楽しみです！



1年間の活動の振り返り

5月：『親支援・子ども支援に関する学習&情報交換会』を行いました。3年前から実施している学習&情報交換会。今年も、三重のスタッフ以外に27名の方にお越しいただき、総勢40名の賑やかな会になりました。



今年も、訪問看護を通して、親・子を支えているオラシオンさん（東大阪）に取り組みを紹介していただき、制度の抜け穴に落ちてしまいがちな親の育児支援・子ども支援をどのように取り組んでいけば良いか？と皆で意見交換しました。この情報交換会には、“子”の立場の方も“子どもの専門家”としてお越しいただいています。来年も5月頃に開催する予定です。

6月：親・子を身近で支える学校の先生や、地域の民生委員・児童委員さん等を対象とした『支援者研修』を行いました。毎回、好評を得ているこの研修は、研究者・精神科医・精神保健福祉士・臨床心理士の立場から、親・子の生活状況（思い）を伝えることで理解を図り、周りの大人がどんな風に関わっていけば良いのかを伝える内容になっています。そして、もっと学びたい…と言われる方には、実践講座を準備し、支える人を増やす challenge もしています

8月：皆さんから聞かせていただいたお話をまとめて**国際学会**で発表しました（研究）。そしてそれが、**Best Poster Award (1st prize)** をいただきました!! 概要は以下です。

土田が2010年～2012年に統合失調症の親御さんと暮らした経験のある子どもの立場の方22名にインタビューさせていただいたものをまとめたもので、統合失調症の症状として示される奇行や障がいによって親役割ができなくなったことを子どもがどんな風に捉え対処しているのか、どんな影響があるのか…と分析しました。それを図式化したのが下の図になります。

簡略化した下の図ではうまく表現できていませんが、ここに親御さんの症状の波（調子の良し悪し）も関与してきます。ここで着目したいのは、同じような症状・状況にありながらも、「何とかなる」と思えた子どもの方がいたことです。その背景には、障がいを持つ親御さん自身が家族にも世間にも病気のことを開示し、当たり前のこととして支援を受ける姿がありました。

このように考えると、障がいを持つ親御さんやご家族（配偶者や祖父母の立場の方）が正しく障がいのことを学び、支援に繋がるのが、子どもの安定した生活に繋がるのではないかと考えています。

支援者研修の対象も、教育や地域の方でしたが、これからは医療機関へのアプローチも視野に入れ、“正しい情報と生活に関するアセスメントと支援を”と投げかけていきたいと思っています。そして、一番下にずど～んと横たわっている《偏見や社会通念》が、親にも子にも支援を受けにくくさせているんですよ？ こうした研究結果を公表することで、偏見や社会通念にもエイッと一刺しできればいいなあ…と考えています。



子ども支援の様々な形態

親&子どものサポートを考える会のホームページでもマップで紹介していますが、子ども支援の形態も語りの場・学習会・情報提供・SNS…と広がり、運営者も支援者から同じ境遇(子)の立場の方へと広がり、自分に合ったところを選択できるようになってきました。私たちの会は“子どもの声に耳を傾けながら…”をモットーに取り組んでいますが、これからも皆さまから意見をいただきながら、細く長く取り組んでいきたいと思っています。

